

羅臼町海岸町斜面崩壊に関する調査メモ

調査箇所；羅臼町海岸町 (44° 3' 11.84"N, 145° 13' 58.15"E)

調査日；2016/8/30 (火)

調査者；伊藤陽司・渡邊達也 (北見工業大学)

石丸聡・輿水健一 (道総研地質研究所)

調査日；2016/9/14 (水)

調査者；渡邊達也 (北見工業大学)

若月強・池永隆博 (防災科学技術研究所)

概要；

8月24日午後4時30分ごろ、羅臼町海岸町道道87号線沿いの斜面で大規模な崩壊が発生。崩壊地の地質構造は上位から火山灰質シルト、礫・泥互層、ハイアロクラスタイトで構成される。礫・泥互層基底には複数のパイピングホールが存在し、継続的に湧水が認められた。また、火山灰質シルト基部にも大きなパイピングホールが認められた。崩壊源の幅は約40m、長さは約65m、傾斜は約16°である。滑落崖の高さは約11mで、火山灰質シルトと礫・泥互層の境界がすべり面と推定される。



写真1. 崩壊斜面前面

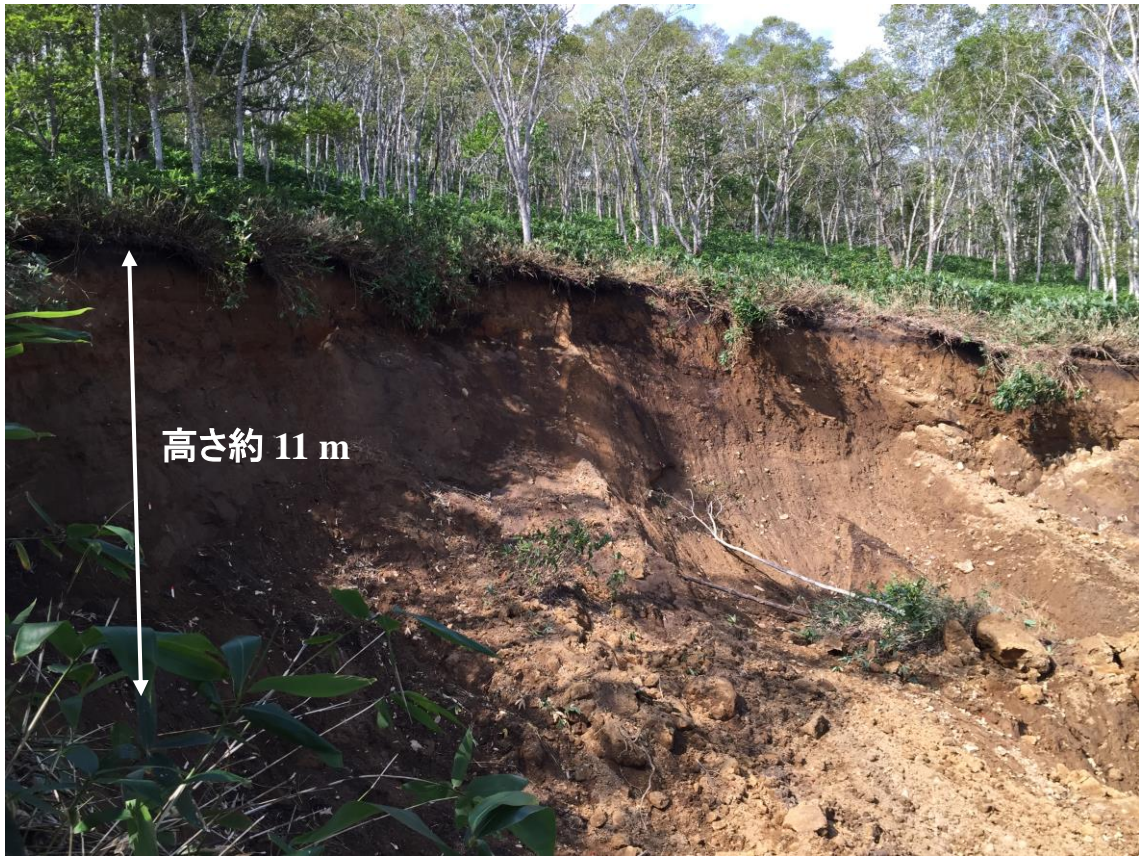


写真2. 滑落崖

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 助教 渡邊達也

e メール: twata (at) mail.kitami-it.ac.jp